

友生小だより

伊賀市立友生小学校 学校だより No.4 2024年6月25日



プール水泳が始まりました



6月17日(月)、プール開きをおこないました。この時期になると、曇り空や気温の高くない日などプール水泳実施が危ぶまれる日には、朝の会が始まってしばらくすると、いくつかの教室から「やったー!」と大きな歓声が聞こえてきます。このうれしそうな声を聞くと、プール水泳が実施できなかった3年間と比べ、今のありがたさを感じずにはられません。

学校のプール水泳では、何よりも安全を最優先させて準備、点検作業、指導、判断、危機対応等を行いますが、安全にはその日の体調も大きく影響します。学年にもよりますが、子どもたちは自分の体の調子や加減を判断するのが、まだまだ苦手です。もちろん学校でも確認していますが、プール水泳の日には、朝、必ず保護者の方がご確認いただき、判断の上、水泳カードに押印してください。規則正しい生活や十分な睡眠なども含め、安全な水泳指導の実施のために、ご協力をお願いします。

本当の自分でいられる、安心できる学級

6年生は、6月18日(火)、人権学習で「ヒューリアみえ」の松村元樹さんに、お話を聞かせていただきました。松村さんからは、まず、考えるための大切なヒントをもらいました。「見えることから得られること、わかることは限られています。」「自分は誰にどこまで本当の自分を出せていますか?友だちの何をどこまで知っていますか?」「知ってほしいこと、伝えたいことを、伝えたい時に伝えられる学級ですか?」「どうすれば本当の自分でいられる、安心できるクラスになりますか?」といったキーワードについて、ご自身の具体的な体験を交えながら話していただきました。そして、「自分を安心して出せる、話せるクラスになってほしい。これから自分はどうしていきたいのかを考えてほしい。」と話してくれました。

子どもたちは、松村さんのお話重ねながら、自分の体験や思いについて考えました。6年生は、ここから「こうなっていきたい」と思う自分、クラスを目指して、さらに学習を進めていきます。

以下は、授業の後に子どもたちが書いた感想の一部です。

じゅぎょうご こ かんそう
～授業後の子どもたちの感想から～

- 見た目だけで、この人はこうだと思っても、心は違うかも知れないということがあらためてわかった。
- 「相手のことをよく知る」ことを、あらためて大切だと思ひ、心掛けていこうと思つた。
- ぼくは今まで相手のことを考へているだけだったけど、それだけだと相手の本当のことはわからないから、本当は相手がどう思っているか、どう感じているか、答え合わせをすることが大切だとわかった。
- 自分はもしかしたら、無意識にきずつけているかもしれないということを知り、相手がどう思っているかを考へるだけではなく、本当のことを知らないといけないんだなと思ひました。
- 友だちからのふざけた冗談が心にグサツとささることがたくさんあつて、すぐわかるなと思ひました。それと同じくらい、自分もやってないかな、かるく言つたつもりが実は心を痛くさせていないかなど、いろいろお話を聞かせてもらつて思ふこともたくさんありました。
- 無意識の差別をやらないように気を付けたいと思ひました。そのために、普通とは何なのか、当たり前とは何なのかについてもう一度考へ直したいと思ひました。
- 「無意識の思ひ込み、偏見は差別のスタートライン」という言葉と「100%の自分を出せているか」という問いが心に残りました。～今はまだあまり友だちのことがわかっていないので、お互いに知り合おうと思ひました。
- 自分も元樹さんと同じように、言われて嫌だつたときに笑つてごまかしていた。
- 自分は100%の自分を出せていなくて、人に相談するのが怖くて、これから一人で解決しないとイケないのかなと悩んでいたけど、元樹さんもそんな経験をしているのがわかつて、ぼくも人に相談しようと思つた。
- 仮面をかぶつて過ごすんじゃなくて、仮面を外して話したりできるようになりたいと思ひました。
- ぼくが困つていたときに友だちが相談に乗つてくれて、その時ぼくは、すごく心が軽くなつたので、もし困つて相談したい人がいればしてあげたいと思ひました。
- 自分も悩んでいることを周りの人に相談することが難しかった。自分はその事に悩んでいた。だけど、元樹さんの「安心できる空間をつくる」と(いう言葉を)聞いたとき、安心できる空間なら相談できるとおもひました。

